

志教育の視点	☑かかわる ・ □もとめる ・ ☑はたす
--------	----------------------

活動名	I U U漁業と奴隷労働問題について
教科・領域等	LHR
活動学年等	3学年
ねらい	世界で起きている漁業における諸問題について理解するとともに、国際交流を推進し、我が国と他国の文化や生活習慣などについて理解し、よりよい交流の在り方を考えるなど、ともに尊重し合い、主体的に国際社会に生きる日本人としての在り方を探求する。

【実践内容】

〔志教育の視点〕

WWF ジャパンから講師を招き、I U U漁業と奴隷労働問題について理解し、国際社会の現状について考える。国際社会に貢献できる人材になるために、どのような資質・能力が求められるかを学び、自身がどのようにかわり、課題解決に主体的に取り組むことができるか探求する。

〔活動内容〕

- 事前活動として、実際に行われているI U U漁業や奴隷労働問題に関する映画を視聴し、世界のあらゆる海で現在もなお起きている問題について理解し関心を持たせた。
- 講話開始前に、講話を行う意義について学年主任から説明を行い、WWF ジャパン 自然保護室海洋水産グループから講師を招き講話をいただいた。内容としては、視聴した映画「ゴーストフリート」についてのフォローアップを含めた、世界で行われているI U U漁業における奴隷労働問題や人身売買問題について語られた。
- 講話が終了すると、労働権利推進ネットワーク（LPN）のパティマ・タンプチャヤクル氏とリモートでの対談を行い、より具体的な内容の講話をいただき質疑応答を行った。最後に、パティマ氏から水産を学ぶ高校生に向けてのメッセージをいただいた。
- 講話終了後に、事後指導として本講話についてのアンケートを実施した。アンケート結果には、「現代において、奴隷として労働をさせられている人々がいることに戸惑いを感じた。」「怖いのは自分が死ぬことよりも人を救えなかったときというパティマさんの言葉が印象的だった。」「私たちが普段食している魚介類がもししたら、奴隷労働者によるものかも知れないと考えると胸が苦しくなった。」などの意見が多く書かれていた。
また、この講話に参加した生徒たちは、今日学んだことを踏まえて自分に何ができるか、考えていきたいと答えていた。
生徒たちが現代の国際社会問題について理解し、国際平和とは何か、自分に何ができるのかを考える良い体験となった。

